

初期松江城天守の形態と千鳥破風

和田嘉宥・稲田 信

1. はじめに

・国立公文書館所蔵の『出雲国松江城絵図』（重文；「正保城絵図」の一つ）に描かれている松江城天守は、現天守とは異なり、二層目、三層目に千鳥破風が、四層目には唐破風が描かれている。

・「出雲国松江城絵図」（「正保城絵図」、以下「公文書館図」）には、下図とも思われる「出雲国松江城絵図」（以下「乙部図」）が地元存在しているが、これら「『出雲国松江城絵図』は藩の絵師が描いたものと思われる」（川村博忠氏）

・「（幕府収納図である「正保城絵図」には）インチキは書けない」（中井均氏）

・「寛永15年時点で松江城（天守）が『竹内右兵衛書つけ』や『天守（松江城天守雛形）』のような形態であったと断定するのは危険である」（西和夫「松江城調査報告」）

→初期松江城天守は現在とは異なる姿をしていたのでは？

1. 絵図に描かれた松江城天守

①「出雲国松江城絵図」（公文書館図；正保年間1644~48）

②「出雲国松江城絵図」（乙部図；正保年間1644~48）

③「出雲国松江城之絵図」（延宝2年1674）

④「松江城及城下古図」（天和3～元禄5年）1683~1692）

⑤「御城内絵図面」（享保5年1720）

⑥「松江城城郭図」（元文3年1738）

⑦「松江城下絵図」（元文～延享年間1738～1748）

⑧「諸国城郭修復図」（安永2年1773）

⑨「松江城郭古図」（安永7年1778）

⑩「出雲国松江本城図」（元治元年1864）

⑪「旧松江城之図」（明治42年1909）

①～③図と⑥以降の図では、天守の姿が異なる。これは何故か？

《参考図》「初期松江城天守の形態に関する試論」（松江市史研究8号）P.9~10（図1~12）



① 「出雲国松江城絵図」の天守



③ 「出雲国松江城之絵図」の天守



⑥ 「松江城城郭図」の天守

2. 「正保城絵図」に見る天守の形

《参考資料》「『正保絵図』と『出雲国松江城絵図』に関する考察」表1・図1（松江市研究8号、P.24~28）

- ・ 「正保城絵図」は正保年間（1644~48）に諸大名が作成し幕府に収納した城下（城）絵図。
- ・ 現在63葉が保存され、内31図に天守が描かれている。城下全体を描いた図ではあるが、図の多くは「○城絵図」と記され、城郭部を誇張して描かれている。
- ・ 「正保城絵図」は幕命により記載すべき情報が指示されていた。例えば、「本、二、三ノ丸間数之事」「堀のふかさひろさの事」「天守之事」（佐賀藩「多久家有之候御書類写 十五」）とった城郭内部の情報を記載し、天守も描かれ、何階（層）であるかを明記し、石垣の高さまで記載されていた。
- ・ 「出雲国松江城江絵図」は「公文書館図」と「乙部図」2枚が現存、天守が明確に描写されている。
- ・ 「正保城絵図」に描かれている天守は大半が層塔型である。「正保城絵図」の松江城天守の層塔型。

天守形態の変容（望楼型から層塔型へ）

・ **望楼型天守** 初期の天守形態
一重or二重の入母屋の屋根に望楼を立ち上げる
(犬山城・岡山城・大坂城・米子城・松江城・・・)

・ **層塔型天守** 後期の完成形態
屋根を単純に積み上げ、平面規模は少しずつ遁減
(弘前城・丸亀城、名古屋城、江戸城・・・・)



犬山城天守



岡山城天守



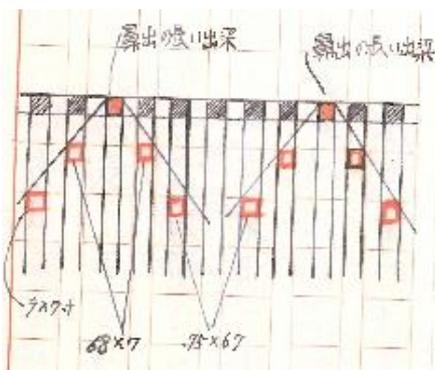
弘前城天守



名古屋城

3. 松江城天守に残る痕跡

「一重の特殊な出梁」（須田主殿編『城郭史から見た 松江城天守と昭和の修理』に記載）



初重屋根東側出梁の内式本鼻先を長く伸ばしたものがあったが、解体前から問題として入念に調査したが鼻延の出梁を中心として左右に屋根形に差桁の木口彫の仕口跡が柱に残って居る。又南北二階柱面に中心柱から各二間宛振り分けに（梁間四間）枿穴が存して居た。左図 ■柱には棟木と思われる仕口穴が存し、是れ等三点を結ぶと千鳥棟の形状をなし当初は千鳥破風が初重にあったのではあるまいかと想像される。延宝の古図には千鳥棟が描かれて居るが、此の絵が実写か想像図か明らかでない。もし千鳥棟があったとすれば、いつの時代に現

在の如き東西大破風になったものか明確な記録、史料がないから判明しない。東側には北と南とに貳ヶ所に
出梁があったが、西側は明治の大修理において柱や梁等を取り替えられて居るから東側の如きかくの如き状態であるから千鳥棟があったものと想定して実測図にあてはめて見ても屋根に納まらないから此千鳥棟については今後確證の発見によって解決されるべきものと思う。出梁はなかった。前述の如き事実は解体の時に西側と南北側とは之れを認めなかった。

現天守に残る破風（仕口）の痕跡（天守2階、4階）



現天守南面



天守2階東面内部



(ろ8) 柱内側の枘跡



(ろ8) 柱外面(石落し部分)仕口跡, ほぼ20cm四方



天守4階東面

《参考資料》

「初期松江城天守の形態に関する試論」 図13,14,21,22 (松江市史研究8号、P.11,22)

《附記》

「竹内右兵衛書つけ」の天守・櫓の記述

- ・「(天守) 三重目也 西ニ破風在リ」
- ・「(天守) 四重目也 南北ニ破風有リ」
- ・「西ノ唐破風矢倉(鉄炮櫓) 四間ニ五間 上之重ハ三間ニ四間 西ニ三尺式間ニシテ唐破風仕出シ有リ」 (本丸西中央の鉄炮櫓に唐破風)

